

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 09年8月 ～在庫調整が足踏み

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

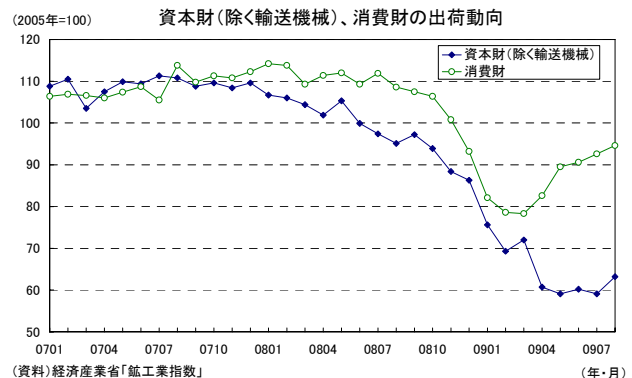
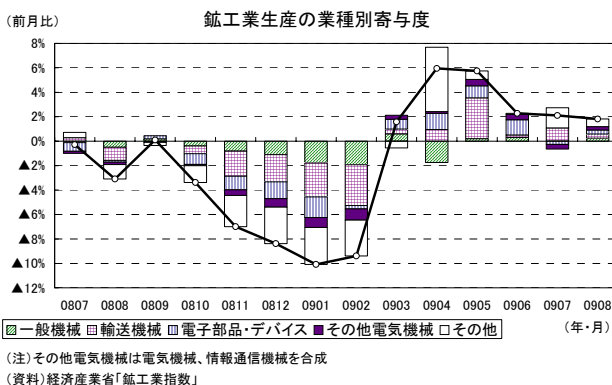
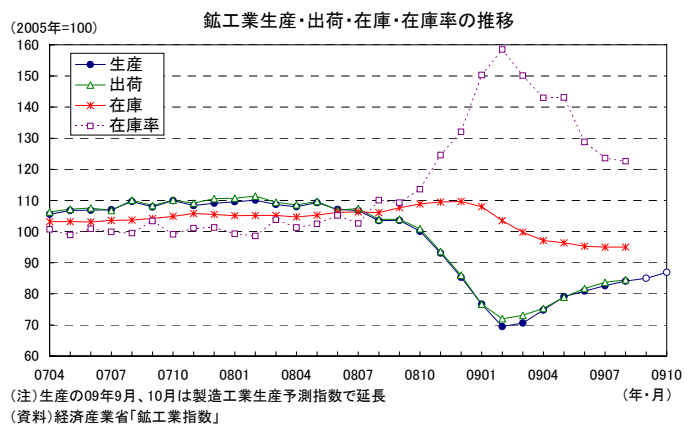
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産は6ヵ月連続の上昇

経済産業省が9月30日に公表した鉱工業指数によると、8月の鉱工業生産指数は前月比1.8%と6ヵ月連続で上昇し、ほぼ事前の市場予想（ロイター集計：前月比1.9%、当社予想は同2.4%）通りの結果となった。出荷指数は前月比1.0%と6ヵ月連続の上昇となった。鉱工業生産は4月、5月には前月比で5%台の高い伸びとなったが、6月以降は2%前後の伸びとなっており、回復ペースはやや鈍化している。

在庫指数は1月以降、7ヵ月連続で低下していたが、8月は前月比0.0%の横ばいとなった。在庫調整が大きく進展してきたことは確かだが、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は依然マイナスであり、在庫率指数も高止まりしている。この段階で在庫が増加に転じることは、生産の抑制要因となる可能性がある。来月以降の在庫の動きが注目される。

8月の生産を業種別に見ると、輸出の持ち直しを背景に鉄鋼が前月比8.4%、輸送機械が同2.2%となったほか、在庫調整が大きく進展した情報通信機械が前月比5.9%、電子部品・デバイスが同3.3%となった。速報段階で公表される16業種中、13業種が前月比で上昇、2業種が低下（1業種が横ばい）となった。



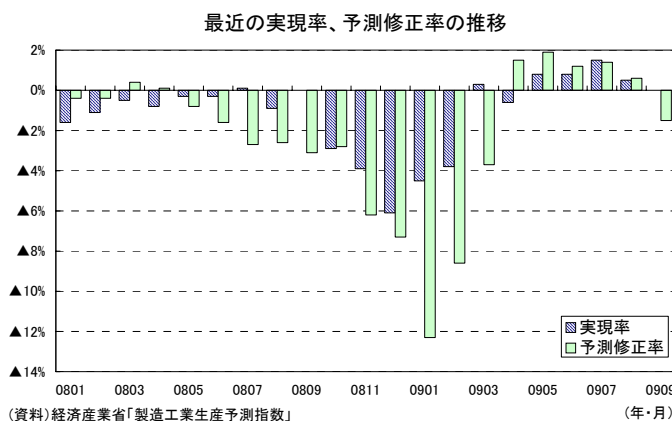
財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は4-6月期に前期比▲17.0%と急速に落ち込んだ後、7月が前月比▲1.8%、8月が同6.9%となった。7、8月の平均は4-6月期よりも1.9%高い水準となっている。GDP統計の設備投資は4-6月期の前期比▲4.8%に続き7-9月期も低調な動きが予想されるが、減少幅は縮小することが見込まれる。

一方、消費財出荷指数は4-6月期の前期比9.9%の後、7月、8月ともに前月比2.2%となり、7、8月の平均は4-6月期よりも6.8%高い水準となっている。ただし、鉱工業指数には含まれない旅行、外食などのサービス消費は、雇用・所得環境の悪化を背景にこのところ弱めの動きとなっている。エコカー減税・補助金、エコポイント制度といった政策効果に支えられて、4-6月期の民間消費（GDP統計）は前期比0.7%と3四半期ぶりの増加となったが、7-9月期は伸びが大きく鈍化する可能性が高いだろう。

2. 7-9月期は2四半期連続の増産だが、4-6月期の伸びを下回る公算

製造工業生産予測指数は、9月が前月比1.1%、10月が同2.2%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（8月）、予測修正率（9月）はそれぞれ0.5%、▲1.5%となった。実現率は4ヵ月連続でプラスとなったが、予測修正率は6ヵ月ぶりにマイナスとなった。

予測指数を業種別に見ると、設備投資の減少を反映して低調な動きが続いてきた一般機械が9月（前月比8.1%）、10月（同5.6%）ともに高い伸びとなっているほか、9月の輸送機械が前月比10.5%の大幅増産計画となっている（10月は同▲0.2%）。



8月の生産指数を9月の予測指数で先延ばしすると、7-9月期の生産指数は前期比7.2%の上昇となる。鉱工業生産が2四半期連続で増加することは確実だが、4-6月期の前期比8.3%に比べると伸びが鈍化する可能性が高い。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。